

Discussion Paper Series

No. 2014-01

サプライチェーン・マネジメント論
—戦略・構造・プロセス・パフォーマンス—

中野幹久 (Mikihisa NAKANO)

2014年1月 (Jan. 2014)



*The Society of
Education & Research
in Management*

Kyoto Sangyo University

サプライチェーン・マネジメント論

ー戦略・構造・プロセス・パフォーマンスー

中野 幹久

京都産業大学経営学部

mnakano@cc.kyoto-su.ac.jp

要旨

本稿は、サプライチェーン・マネジメント（SCM）を経営学のマネジメント論のひとつとして体系化することを目的としたものである。内容は、静態的な SCM 論と動態的な SCM 論の二つに分かれる。

静態的な SCM 論では、「SCM は戦略的かつ組織的なマネジメントである」という認識の下、経営戦略論や経営組織論の領域でよく用いられている SSPP（Strategy-Structure-Processes-Performance）と呼ばれる分析枠組みを使う。サプライチェーンの戦略を、効率性重視、応答性重視、効率性と応答性の両方重視の三つに分けて、各戦略に適合する企業内および企業間の構造とプロセスを論じる。

動態的な SCM 論では、サプライチェーン・プロセスの変革過程に焦点を当てる。組織変革論、プロセス変革論から得た知見を整理し、プロセスの変革過程を移行前、移行中、移行後の三段階に分けて、各段階でどのようなマネジメントが求められるのかを論じる。

キーワード

サプライチェーン・マネジメント；SSPP フレーム・ワーク；戦略、構造、プロセスの適合；パフォーマンスのトレード・オフ；サプライチェーン・プロセスの変革